



## 自然

太古の記憶を残す多様性に富んだ豊かな森。そこには、生きた化石であるアマミノクロウサギをはじめ、固有の生きものたちがたくさん暮らしています。

これらは世界からも高く評価され、令和3年7月奄美大島、徳之島が沖縄島北部及び西表島とともに世界自然遺産に登録されました。

この豊かな自然の中で、マングローブ原生林でのカヌー体験やトレッキングツアーなどを楽しむことができます。

一方で、貴重な自然環境を守るための取り組みは欠かせません。希少生物の保護やエコツアーガイドの人材育成などさまざまな活動が行われています。



奄美大島  
Amamioshima

喜界島  
Kikaijima

加計呂麻島  
Kakeromajima

与路島  
Yorojima

請島  
Ukejima

徳之島  
Tokunoshima

沖永良部島  
Okinoerabujima

与論島  
Yoronjima

## 島唄

独特の裏声と三線(さんしん)による弾き語り、聴く人の心を魅了する「島唄」。

奄美群島では、それぞれの島や集落の歴史と伝統を受け継ぐ島唄が今なお、うたい続けられています。お祝い事や伝統行事のみならず、普段の人々の暮らしの中にある島唄。老若男女を問わず、その場の人々のつながりや絆を深めてくれます。楽しく盛り上がるだけでなく、時には人々の心の奥底にある感情も唄にのせて、その場で共感し合うことのできる素晴らしい財産です。



奄美群島の宝を  
世界へ、そして  
「次世代」へ  
語り継ぐべき奄美群島の魅力



## 大島紬

軽くて温かく、しなやかで着崩れにくい大島紬は、長い歴史と伝統を持つ織物の一つです。独特の深い色で、上品な雰囲気を醸し出します。

気品のある光沢は、30以上もの「工程」と半年から1年もの「時間」をかけた、職人の技と細やかな手仕事によって生み出されています。

丁寧に作られている分、高級なイメージがありますが、丈夫で美しく普段使いしやすい織物でもあります。見た目の美しさはもちろん、高い機能性にも注目です。最近では、大島紬の新しい魅力を知ってもらおうと、洋服やネクタイ、ブックカバーなどの小物類にも活用されています。着物はなかなか着る機会がないという方も、まずは小物から大島紬に触れてみるのも良いかもしれません。

## 闘牛

徳之島の闘牛は、各地で開催される闘牛大会の中で「最も熱い!」と言われ、全国的にも一目置かれています。牛同士がぶつかりあう姿や激しい技の攻防は、迫力満点。場内では、好勝負や激戦になればなるほど、指笛とともに観客からの歓声も響き渡ります。勝利の瞬間は、歓喜の踊りを繰り広げ南国ならではの熱狂に包まれます。



## 断食活動

断食祈願(高千穂神社)

昭和27年8月1日、祖国復帰の父と呼ばれる泉芳朗(いずみほうろう)は高千穂神社で日本復帰を祈願した断食を5日間実施。この断食による復帰運動は群島民にも広がりを見せました。



## 署名活動

日本復帰署名簿

全国各地の奄美出身者たちが一丸となって組織的な署名活動を実施。14歳以上の群島民の99.8%が署名した署名簿は、外務省などへ請願書とともに提出されました。



(奄美市立奄美博物館所蔵)

## 非暴力・無血で

## 達成した日本復帰

### 復帰運動と

### 復帰の日を経て

### もつと平和な世に

生元 高勇さん



奄美群島の日本復帰の時、私は高校2年生でした。復帰の日には授業中で、復帰を祝した新聞社の航空機が飛び、うれしかったことを覚えています。

戦時中の幼い時は奄美大島の宇検村に住んでいましたが、食べる物がなく、ひもじい思いをして、つらかったですね。また戦後は、小学校であった集会に行って、日本復帰の歌をみんなでよく歌いました。日本復帰に向けた署名も、父と一緒に書きに行った記憶があります。少し年上の若い人たちが熱心に活動をしていて、自分も協力したいという気持ちでしたよ。

戦争が終わり、奄美群島も復帰して日本は平和になりましたが、世界ではまだ戦争を行っています。なぜ人と人同士が戦う必要があるのだろうと思います。戦争で苦勞をした経験があるからこそ、みんなで助け合って平和な世の中をつくりたいと心から思います。

### 日本復帰を

### 伝える島唄を

### うたい続ける

西和美さん



奄美大島で郷土料理店を営みながら、島唄の唄者としても活動しています。昔、日本復帰時の思いをのせた歌詞にアレンジした「復帰くるだんど節」をご年配の方々に教えてもらいました。「日本復帰の知らせを聞いた。断食でつらい思いをしたが、こんなにうれしいことはない」といった歌詞です。「奄美群島復帰50周年記念イベント」でうたいましたが、当時を知る方々は涙を流されていましたね。

私は小学3年生の時に瀬戸内町から引っ越したので、復帰当時の記憶は少ないのですが、いつもお腹が空いていたという印象があります。また、当時は島唄をうたって遊ぶのが娯楽でした。「復帰くるだんど節」も、そうやってうたわれて、皆さんの心を慰めてきたのでしょうか。

今は豊かになり、なんでも手に入る時代になりました。平和な時代になって本当に良かったと思います。思いながら、今日も島唄をうたっています。